

# 哲学概論

担当責任者 准教授（哲学概論） 前田 義郎

## 一般目標 (GIO)

医学は、自然科学の知識に加えて、人間の生死という人間存在の本質に関わる側面、技術的・実践的な要素、また人間対人間という倫理的な側面が関係する難しい仕事である。それに加えて産業医学は、予防医学、環境医学、社会医学という性格を持ち、いっそう幅広い見識を必要とする。

そこで哲学概論では、医学生が医学を学び、将来それを実践する上で避けて通れない難しい問題について、医師自身が哲学するための基礎となる方法や考え方を学ぶ。

## 行動目標 (SBO)

1. 自ら考え、哲学することができる。
2. 自分自身の前提となる世界観や価値観について反省し、必要があればそれを変革することができる。
3. 自然科学を支えている形而上学的前提や科学の方法について理解できる。
4. 自己と他者、身体性、技術の本質などの心身一元論的な分野を正しく認識できる。
5. 人間の体験を掘り下げ、倫理と人間の尊厳性に対する認識を持つことができる。

## 成績評価方法・基準

定期試験、夏期休暇レポート（小論文）、出席点の3つの要素により評価する。

夏期レポートは哲学概論における実習という位置づけである。

## ○ 教科書

使用しない。

## ○ 参考書

戸田山和久『知識の哲学』、産業図書

授 業 項 目 ( 内 容 )
哲学とは何か(1)
〃 (2)
「存在」についての反省
西欧形而上学の歴史(1)―「実体」の見方
〃 (2)―「本質」の見方
〃 (3)―「個と普遍」の見方
近代科学の成立―アリストテレスからガリレイへ
誤謬論―ベーコンのイドラ説
科学方法論(1)―操作可能性、実験の意義
〃 (2)―検証、反証主義、対照実験
近代科学の形而上学―デカルトの哲学
心身二元論の問題点―自己と他者、身体性
技術の存在論、諸形態、内在的問題、倫理
生物・生命について
人間学の課題と方法―苦悩、生と死、希望、尊厳
倫理学序論(1)―自由の意味、価値の在処
〃 (2)―価値判断の方法
〃 (3)―義務論、多元的分析の方法